

私立学校における環境教育の取組

学 校 名	鎌倉学園中学校高等学校	代表者	竹内 博之
<p>取組状況</p> <p>本校ではゴミの分別を生徒にしっかりと実施してもらうために、入学時にゴミ問題についてホームルームの時間を使って話をしています。また、理科や国語の時間に授業と関連づけて地球の温暖化、環境破壊といった内容の教育ビデオを見せて生徒たちが環境問題に関心を持つことも行っています。体験学習としては中学1年生と2年生で6月の海開き前に材木座と由比ヶ浜の海岸清掃を実施しています。また、中学生では年に数回クラス単位で道徳教育も兼ねて北鎌倉から本校までの通学路の清掃を実施しています。生徒たちにいかに多くのゴミが捨てられているかを知ってもらうとともに、自分たちはゴミを捨てないという意識を持ってもらおうと思っています。そのほか、環境問題に関心を持ってもらうために中学生に夏休みの宿題として美化に関するポスターの作成を課したり、国語の宿題として「環境問題」に関する作文を書かせることもしています。高校生では一昨年発足したインターアクト同好会が、ボランティア活動の一環として通学路や鎌倉の街の清掃などを実施しています。</p>			

学 校 名	北鎌倉女子学園	代表者	又木 正登
<p>取組状況</p> <p>鎌倉三大緑地のひとつである台峯緑地に囲まれ、自然に恵まれた本校では、中学1年生を中心として、その豊かな自然を利用して環境教育を行っています。まず、中学1年生時に学習する理科2分野の「身近な植物の観察」を学校周辺野外にて行います。近頃の子どもたちにとっては珍しい様々な「雑草」を観察することができます。また夏には野辺山合宿を行い、登山を通して北鎌倉とは大きく異なった自然に接しています。そして学年末には「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」のボランティアの方々に講師をお願いして、北鎌倉山歩きを行います。耕地から自然に戻った様子を実際に見ることができます。こうして一年を通して自然本来の姿を理解し、人間と自然の共存を学ぶ機会としています。他に中学3年生が水質調査（COD）を学校周辺の野外、小袋谷川にて行います。また科学部では、環境保全課で主催している酸性雨調査に毎年参加しています。高校3年生が学園内の芝地の植生調査を行っています。</p>			
   			

学 校 名	鎌倉女子大学中・高等部	代表者	伊住 彰三 部長
-------	-------------	-----	----------

取組状況

鎌倉女子大学中・高等部では、学校農園を用いた環境教育を行っています。21年度は、畑の土に触れ、額に汗しながら作物を育てて、収穫したものを自分たちで調理し食べています。また、文化祭において、収穫したサツマイモを調理してダイガクイモとして販売しました。農作に取り組み、収穫して食べることを通して、食と環境の関わりを生徒に考えさせることが目的です。

畑では化学的な農薬を使用せずに、木酢液などで虫除けを行っています。稲穂は鳥に食べられて収穫量が著しく低下することや、ジャガイモの緑化部分は食べてはいけないことを生徒とともに観察しています。大根は葉も調理して食べたが、農薬を使用していないため、虫に食べられている部分がたくさん見られ、虫に食べられた穴のある葉を調理することが、生徒には驚きとして表情に表れます。食事の後には、虫も寄らない殺虫液のかかった葉や、温室のように害虫駆除を考えた施設についても考察することができます。

自分達で作ったものを調理して食べることで、大きな生態系の循環の中にいるヒトの存在を少しは実感できていると考えています。太陽と土の恵みを受けて育った作物は、ヒトの身体を通過し、再び土壌へ戻っていきます。また、労作と生物の学習だけでなく、広い意味での家庭科教育も兼ねています。

昨年度育てた作物は、以下のものです。

- ・稲：田んぼ、ペットボトルを使って育てました。
- ・サツマイモ：畑、土のう袋を使って育てました。
- ・ジャガイモ：畑、土のう袋を使って育てた。めかきをした場合としなかった場合の比較も行いました。
- ・大根：畑、サツマイモを育てた後の土のう袋を使って育てました。



写真：ペットボトルへの稲植え(中・理科)



写真：農作業(高・家庭応用)



写真：大根を使っの調理実習



写真：ペットボトルで稲を育てた(中・理科)



写真：土のう袋ジャガイモ(中・総合)



写真：稲刈り(高・化学Ⅱ)

学 校 名	鎌倉女学院中・高等学校	代表者	齋藤 俊英
<p>取組状況</p> <p>中1</p> <p>「富士五湖周辺自然観察」で、2泊3日で次のような研修を行い、環境学の基礎として、自然に関心を持ってもらいました。</p> <p>第1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富士湧水の里水族館にてワークシートを用いた淡水魚の観察 ・ インストラクターの解説を聞きながら、青木ヶ原樹海ウォーク <p>第2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペットボトルを使って山中湖の生物を採集 ・ 山中湖畔に落ちている釣り糸の回収 ・ 山中湖をきれいにするための方法について話し合い、班ごとに発表 <p>第3日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山梨県環境科学研究所及び生物多様性センターの見学 <p>中3</p> <p>「環境」という授業を1年間行い、環境問題について班ごとに調べ、次のようなテーマで発表してもらいました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミとリサイクル ・ エネルギー問題 ・ 地球温暖化 等 <p>高2</p> <p>4泊5日の「フィールドワーク沖縄研修」で、事前のリサーチや事後のレポート提出を通して、沖縄の自然や環境問題について学びました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前リサーチでは、授業や書籍、インターネットで沖縄の環境問題について学びました。 ・ 4泊5日の研修ではマングローブの観察や海洋生物の観察を通して沖縄の自然を体験的に学びました。 ・ 事後のレポートでは、さんご礁の被害など海洋生物の問題について報告しました。 <p>高3</p> <p>英会話の授業の中で、4技能を使いながら、リサーチ、ディベート、プレゼンテーションを通して世界の環境問題に関するプロジェクトに取り組みました。</p> <p>中学生</p> <p>次の「土曜講座」で自然観察の仕方を学びました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ビーチコーミング」では、材木座海岸の漂流物を観察 ・ 「バードウォッチング」では、鎌倉八幡宮周辺の鳥の観察 			

公立高等学校における環境教育の取組

学 校 名	神奈川県立大船高等学校	代表者	校長 佐藤 信行
<p>取組状況</p> <p>以前からごみの分別に対しては積極的に推進してきました。①可燃ごみ、②プラごみ、③ペットボトル、④空き缶、⑤不燃ごみ、⑥ベニヤ・角材、⑦リサイクルする紙類、⑧ペットボトルキャップ、各教室に5種類程度のごみ箱を設置。注意書き（ゴム類は、汚れたプラごみは、飲料用以外の缶は、切って使用したダンボールは、等）により分別の徹底を図りました。自販機の業者選定においてはペットボトル、缶のみならず紙パックも全て回収を条件とし、「エコキャップ運動」にも参加することにより生徒への意識付けを行っています。学校周辺の美化活動は、4つのコースと11回の実施日を設定し、クラスごとに必ず一度参加します。また、無駄なコピーを極力減らす、両面印刷、コンセントを外す、こまめな消灯、節水等身近なところからの取り組みを呼びかけています。</p> <p>教科においても洗剤等による水質汚染を家庭科や保健体育で、地歴公民における地球規模の問題提起、各教科における環境を題材にした教材の使用等、環境問題を学ぶ場を提供しています。</p>			

学 校 名	神奈川県立鎌倉高等学校	代表者	校長 林 誠之介
<p>取組状況</p> <p>1) 国語科</p> <p>①1年生の夏休みの宿題で、中央大学の「地球環境論文賞」に45名が応募。 入選作品・「富士山から地球を見つめる」・「今、目の前にある問題」 ・「ドイツに学ぶこと」・「少しずつ変わっていく」</p> <p>②現代文の授業などで環境問題に関連した項目について、随時ふれました。</p> <p>2) 社会</p> <p>現代社会<現代に生きる私たちの課題></p> <p>○地球環境問題</p> <p>①地球環境問題の現状と相互関係・・・地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、砂漠化 ②環境問題への国際的な取り組み・・・人間環境宣言、持続可能な開発、地球温暖化防止京都議会議 ③次世代に繋げたい環境・・・ラサーム条約、世界遺産条約、ナショナルトラスト運動など</p> <p>○資源・エネルギー問題</p> <p>①限りある資源・・・エネルギー資源の利用 ②新エネルギー・・・「環境にやさしい」クリーンエネルギー ③循環型社会に向けて・・・3R→5R循環型社会形成推進基本法、個別リサイクル法など ④身近な問題から世界環境問題について現状を理解させ、先進国や途上国の主張の違いを踏まえなが ら環境に対する世界的取り組みや自分たちにできることを考えました。</p> <p>政治・経済<日本国憲法の基本原理「基本的人権の保障」></p> <p>①新しい人権・・・環境について訴訟問題の判例を取上げ考察しました。</p> <p><現代経済の仕組み></p> <p>①企業の活動・・・現代の企業がISO14001の取得や環境にも配慮していることを学ばせました。 ②企業の社会的責任・・・CSRとして環境保護活動や環境配慮型商品の生産をしていることを具体例 をあ げ理解しました。</p> <p><市場経済の機能と限界></p> <p>①市場の失敗・・・公害が外部不経済の典型であることを理解させ、社会的費用をどのように負担す べ きかを考察させました。</p> <p>3) 理科</p> <p>生物ⅠⅡ<生態系の保全></p> <p>①授業の中で「環境問題」に関するビデオをみて、各自の考えをまとめ関心を高めました。 ②「earth」担当クラス2時間程度実施</p> <p>化学Ⅰ<酸・塩基></p> <p>①酸性雨について説明、身近な物質のpHの例を挙げ、酸性雨について学びました。</p> <p>4) 英語</p> <p>環境に関連した教材から環境問題を身近な問題として捉えました。</p> <p>英語Ⅰ<Living with Chimpanzees></p> <p>①霊長類学者ジェーン・グドール氏へのインタビューという形式を取り、若者に環境保全の大切さ を 訴えかけています。 ②グドール氏が創設した教育プログラム「Roots & Shoots」等の紹介を通じて、野生動物を守る運 動や地域社会に貢献する活動を学びました。</p>			

英語Ⅱ<Tuvalu-Disappering Islands>

- ①赤道直下にある島国ツバルが、海の中に沈んで消滅する危機にあることを学ぶことにより、深刻化している「地球温暖化問題」に取り組みました。
- ②先進工業国の日常的な人間の活動が、温暖化の一因と考えられることを学び、ツバルの人々は、国民全員が移住しなければならない事態にまで深刻化している問題を少しでも改善していくためには、一人ひとりが毎日できること・・・ゴミを減らす等の努力が必要だと確認しました。

英語Ⅲ<The Ancient Trees of Yakushima>

- ①屋久島杉の原生林が天然記念物に指定され屋久島の保護が開始されました。
- ②「環境文化村構想」を通して環境学習に力を入れました。

5) 保健・体育

環境と健康<地球環境を守るための私たちができる具体的な対策>

- ①光化学大気汚染の発生するメカニズム・人体への影響
 - ・運動時、外出時の対策
 - ②水質汚濁（食物連鎖と生物濃縮）ビデオ学習
 - ・生活の水質は？ 地域の生活排水は？
 - ③土壌汚染の人間への影響を調査学習しレポートにまとめ発表しました。
 - ④産業廃棄物処理の流れと神奈川県の実態
- ※地球保健保全貢献度チェックを行い、環境保全について考えました。

6) 家庭科（家庭科基礎）

- ①資源を生かす
 - 自分たちの生活が環境に及ぼす影響を考え、自覚させ、未来の生活環境を守るために、今できることを考えさせ発表しました。
- ②衣生活を営む
 - 衣生活の計画について・・・衣服のリサイクル、リデュースを考えました。
- ③食生活を営む
 - 家族の食事計画や調理について・・・生ごみ、廃棄物を少なくする計画的な買い物や、生ごみの処理について考えレポートにまとめました。

学 校 名	神奈川県立深沢高等学校	代表者	高梨 美智子
取組状況 ごみの分別、リサイクルをしています。 鎌倉市の分別様式に合わせて、校内でも分別を徹底している。HRでの指導の他、美化委員会による毎月の特別清掃を通して身の周りの不要物の整理、持ち帰りなどを励行しています。			